

グループ	質問内容	回答内容
A	カメラをONにすることとDPを達成できるといのは、何を根拠にして考えられたのでしょうか。カメラがONでない、DPは達成できないのでしょうか。	学生が対面授業よりも遠隔授業に対して満足度が高い理由の一つは、「楽だから。」というような理由も含まれていると考えます。そのような消極的な学びの姿勢から主体的な学びへの転換を促し、開学大学からよりよい人材を輩出するためにも、授業にはある程度、授業に参加している、教員に見られているという意識が必要であるという結論に至りました。そのため、オンライン参加者が特別な理由を除き、カメラONで出席していただくことが必要だと考えます。
A	ハイフレックス授業を実施するにあたり、テストの実施方法などの検討はされておりますでしょうか。	受講者の公平性を保つためにも、成績評価の方法は、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する授業を想定していました。
A	履修者数が多い授業を想定しているということで、授業の内容等はどのようなものを想定していますでしょうか。後ろにスライドで学生が受けているということで、グループワークなどのアクティブラーニングがない授業であれば、全体的に遠隔でもよいのではと考えました。	グループワークなどのアクティブラーニングは、段階的に行なう講義型の授業を想定しております。全体的に遠隔授業をしない理由として、学生の入学目的・ニーズを考えた際に、遠隔を好む学生もいれば、授業前後の交流をしたい等の対面ならではのコミュニケーションを求める学生もいると考え、全体的に遠隔ではなく、対面と遠隔を用いた授業形態を考案いたしました。
B	環境整備の予算とは撮影環境整備のどのなか、学生の受講する端末を準備してあげるのかどちらの予算の筈でしょうか。	どちらにも該当いたします。 ■通信端末の確保 既に学生へのPC・WiFi貸出は行っていますが、現状はインフォメーションシステムでの周知のみとなっており、情報が行き届いていないと思われます。そのため、遠隔授業では第1回目の授業時にLMSや担当教員からPC・WiFiの貸出について周知することも検討しております。 ■受講環境の確保 ①GSCの増設 思考力や判断力などの習得を目的とした授業において、障害や基礎疾患により対面形式で受講できない学生への配慮として、自宅からでも対面授業の長所を享受できるように、GSC(集団授業向け教室)の増設を検討しております。 ※我々の提案として、原則、知識と技能の獲得を目的とした授業は遠隔形式、思考力や判断力の習得を目的とした授業は対面形式としております。その前提の下、障害や基礎疾患により対面形式で受講できない学生への配慮として、上述の内容を検討してまいります。 ②個別学習スペースの設置 1限が対面・2限が遠隔の場合、学内のBIGホールなど、自習スペースで遠隔授業を受講することが可能ではあるものの、多くの学生がいるため、授業中の発言が難しいという課題があります。対面形式で行った方が到達目標に即している授業も、受講生の中に基礎疾患や障害を抱えた学生がいたら、リアルタイムの遠隔授業で代替しなければなりません。(複数のグループに分かれて討論する場合は、1つの教室で通信することが難しいため)そこで、個別学習スペースを予約制で設け、学内でもリアルタイムで行われる遠隔授業を受講できる環境を実現します。
B	授業の目的ごとに対面と遠隔を決めるということで、「知識・技能」、「主体的な態度」の双方を目的とする場合は、どちらの形態を選択するのか、何か検討はされておりましたでしょうか。	15回すべてを対面と遠隔のどちらかに限定する必要はなく、他の限での発表でもあったように対面と遠隔を併用します。「知識・技能」と「主体的な態度」の双方を目的とする場合は、事前に「知識・技能」の獲得を目的とした授業をした後にその「知識・技能」を前提としたグループワークを実施することで、「主体的な態度」の獲得が期待できるだけでなく「知識・技能」の獲得の度合いを確認することもできると考えられます。
B	部署交代制度において、交換された職員が交換先の業務内容を把握するために、業務量が増えると考えられます(教える側も含め)。その際に、残業対応などになるかと思いますが、その点はどのようにお考えでしょうか。	基本的に残業することがないようにご配慮いただきたくて。遠隔授業の受講環境整備のために整えるべき機器と費用、そしてそれを学生が活用することによる利点を予算を決定する部署の職員が理解できれば、この部署交代制度を有意義なものにできると考えています。各部署で主担当・副担当に組み込まれれば、リアルタイムの遠隔授業の管理部署の所属が業務負担を増加し、担当者を決めるといった解決策もあるかと思えます。以上のことを踏まえ、期間は1週間としておりましたが各部署の担当者間で柔軟にご対応いただければ幸いです。
C	対面と遠隔の選択を、「学生の都合のいい方」とされておりましたが、A班の学生に何か制限をかけるのか、それとも全て学生の自由な選択に任せられるか気になります。	Cグループの「共存」の定義であるデメリットを上回るメリットを提供するという考え方を考えた場合、学生の参加形態をなんらかの方法で制限すると、共存のメリットが薄れます。そのため、特に制限は設けず学生の自由な選択に任せざるべきだと考えています。 DPについて、オンライン参加の学生もDPを身につけるためにグループワークを導入した授業を考えています。そのため、DPを達成するための特別な配慮は必要ないと思えます。ただ、グループワークには真刺しを取り組んでもらう必要があるため、グループワークの参加度や貢献度を学生同士での相互評価などの工夫が必要だと考えています。
C	職員のデメリットとして、教室の用意があげられ、課題としてはネットワーク環境の用意があげられていますが、職員としてはどのようなことから始めれば、デメリットや課題は解決できると思えますでしょうか。	教室の用意については、これまで通り対面授業を想定して教室の割り振りを行う必要があるかと思えます。ただし、すべての授業でオンラインと対面の共存が達成できた場合、学内でのオンライン受講用の教室の準備は必要なくなるかと考えています。 また、ネットワーク環境については、数本の有線LANを教室に用意することでネットワーク環境が安定し、大人数の授業であってもスムーズにやりとりができるようになるのではないかと考えています。
D	「主体性」をアウトプットするとされておりましたが、その主体性はどこで画策されるのでしょうか。	グループワークの中で発言で画策されていくものであるかと考えます。 また、全く遠隔(オンデマンド)形式の授業よりも、グループワークを設けることで自主的に遠隔授業に取り組むと考えます。
D	「おもしろい」ということを定義づけておられ、非常に興味深い内容でした。3回に1回が対面グループワークということで、祝日などの関係によっては、1か月ほど学生同士が対面で会えない形になり、グループワークにおいて、心理的安全性が確保できず、グループワークが進みにくく感じました。何か解消する手立てで考えられるものがあればご教示ください。	グループワークの最初にアイスブレイクなどを取り込み、参加者の心理的安全性を確保してからグループワークに取り組むと問題なく進むのではないかと考えます。 また、各グループにファシリテーターのような役割の人(TAなど)を配置することによって議論が活性化するのはないかと考えます。
D	◎遠隔授業の満足度の高さ、逆に、対面授業の満足度の低さの原因は何だろう？ ◎15回の授業の内、対面授業は5回(3回に1回)という具体案もGood! ⇒3回に1回の対面授業が活きるためにはどのような仕掛けが必要かと思う？ ⇒対面に活きるための遠隔授業の工夫はあるか？	◎遠隔授業における学生満足度の高さは、場所や時間を問わず何度でも視聴することが可能な点であると考えます。 対して、対面授業における学生満足度の低さについては、1回の授業の中で内容を理解することが難しいことであると考えます。高等教育機関の授業において、面白くてわからない授業は学生の知的好奇心を刺激し、非常に満足度が高い授業であると考えますが、わからない上に面白くない授業であれば学生の満足度は低くなるかと考えます。 また、遠隔授業の質が向上する一方で、対面授業はコロナ禍以前から授業形態が変化してきており、学生目線に立つ「わざわざ」大学に来たにもかかわらず、遠隔授業で受講可能な内容となっており、対面授業のメリットを活かすことができている授業が多く存在しているからではないかと考えます。 ◎対面授業での学習テーマおよび目的を事前に提示し上で遠隔授業を受講することにより、明確なテーマ・目的に対して学生が主体的に遠隔授業に取り組むと考えます。 また、遠隔授業の中で小テストや問いかけを行い、その答えを対面授業(グループワーク)の中で学生自身が見つけ出すような仕掛けを用い、対面授業は非常に有意義なものになり、学生にとって「おもしろい」授業になると考えます。
E	DとEのグループで知識享受とディスカッションを別日に行うのか同日に行うのか分かれていると思いますが、Eグループは同日で行うことを今回提案している理由は何ですか？	知識享受を別日に行うと、記憶しきれないのではないかと懸念があったためです。同日に行うことで知識享受を行う時間は少なくともあるものの、事前に資料を提供するなどの対応で対策可能かと考えております。
E	case3とcase4において、対面では先生は参加されるが、オンライン配信もする必要があるので、教員にとっての負担になると考えます。その負担を解消・軽減できる方法はありませんでしょうか。	職員が協力することが重要になると考えます。例えば職員はZoomをするためのパソコンを教室に事前準備する、TAやLAの活用などがあげられるかと思えます。
F	提案①において、グループ単位での受講で遠隔対面かということで、教員にとって遠隔と対面両方の学生の管理は容易ではありません。TAやLAの活用も選択肢として考えられますが、他に何かありませんでしょうか。	ご指摘いただきましたように、学生の管理については主にTA/LAの活用を想定しておりましたが、他の選択肢として、各チームごとに2名程度の代理者をたて、週に1回は進捗報告として、ZOOM内もしくはメールにて連絡を行うようにする形も良いのではないかと考えます。 Padletを活用した今回の研修は、他の班のまともな新たな気づきを得られることも多かった経験もふまえ、Padlet等の共有ツールを活用し、毎回の授業終わりにチームの進捗状況やメンバーの新たな学びや気づきをまとめ、受講生全体で共有のうえ、それをもとに週1回、進捗報告として代表者がZoomやメールにて報告する流れを確立することは、学生管理とDP達成の両立につながると考えます。
F	提案の2つ目の内容で、学生だけが教室にいて、先生がいない中、学生が授業にちゃんと出席して、しっかりと取り組んでいるか、という点でサボりがちな学生が出てくる可能性があります。どのようなフォローの方法があるとお考えでしょうか。	授業中に3段階に分けてZOOM上で投げかけに対して答えてもらい、それを平常点として、換算することによって防げるのではないかと考えます。 また、質問の投げかけについても、タイミングが固定的だとサボってしまう可能性があるため、ランダムなタイミングで即時リアクションを求めるような投げかけを行い緊張感を維持することで、十分な受講態度を担保できると考えています。
G	1つ目の提案において、対面授業の録画をするにあたり、脱線話をカットするという点で、何が、授業の臨場感を持たせるために、あえてカットしない方法もあります。その点について、何か意見や感想などはあれば教えてください。	先生方へ差し支えなければ、脱線話をカットしなくても良いと思えます。仰る通り、授業に臨場感が減りますし、脱線話から学ぶことも多いと考えます。脱線話から授業の内容を思い出し、記憶の定着や知識の向上にも繋がると考えます。
G	学生の意思や声を意識することで、学生の声を職員が聞き取る手段として、何かありませんでしょうか。	学生生活実態調査などの定期的なアンケートを続けることも必要であるが、現在の業務の中で日々の窓口対応において、学生と良い関係性を築き、リアルな声を汲み取りたいと考えます。学生の疑問にも答えながら、ニーズをデータとして汲み取ることができるため、将来的には授業に関するチャットボットを導入すべきと考えます。
G	遠隔を午前、対面を午後からになると。教員(特に非常勤講師)の予定が制約されるかと思えます。その点で何か対峙できる具体的な方法があれば、教えてください。	前提として授業の曜限を決めるときは、必修科目の兼ね合いも考えながら、教員の都合の良い曜限を考慮しており、特に非常勤講師は本務校の兼ね合いもあるため優先的に授業の曜限を決めています。また教員の時間は制約していますが、「土曜日も含めて、1週間に6日間も授業が行える日がある」という私立大学ならではの強みがあり、選択肢は広いように思っています。 それでも遠隔を午前、対面を午後のルーティンにない場合は、教育の質を下げないために例外を作る必要があるかと考えます。例として、どうしても対面を午前に行いたい先生に対しては3限の授業を始めるのではなく、2限を始める。理由としては3限が対面であるため、連続して対面授業を受けられるようにした方が授業の統一性があるためです。逆に午後にオンライン授業を行いたい先生に対しては3限を始めることによって1～3限はオンライン授業になり、授業形態に統一性を保持せられると考えます。
H	GSCの取り組みについて、あまり知られていない部分も多いのではないかと考えます。現状、1人の教員でも場所の問題として利用可能でしょうか。また、技術の問題もあると思えますので、そのあたりのサポート面も併せて教えていただけたらありがたいです。	教室利用状況で空いていれば、教員1名でも使用可能です。 技術面のサポートが必要な場合は、まずは国際部の国際教育支援チームにお問い合わせください。
H	GSCについて、費用面で増えない可能性が高いと発表で仰っていましたが、国際部の職員として、増やしたいと考えておりますでしょうか。増やしたいとするならば、どうしてあげればその方針は実現可能になると思えますか。	将来的には増えたと良いと思えますが、今の利用状況で増設しても上手く活用できないと思っています。質疑応答で1部履きしなけり合いになるのでは？とのご意見を頂戴しましたが、現状としては利用できる・利用したい教員が少なく(認知度の問題もあると思えます)、ほとんど毎日空き状態が続いています。(次年度からはGSCを利用した授業が始まり、週3・各日2-3コマは埋まる予定です。)そのため、まずは先生方に半発でも良いので積極的に利用していただき、GSCを利用することでより質の高い授業が提供できることを実感してから、部数増やかどうかの議論になるのだと考えています。 また、現状GSCの運営を行っているのは国際部ですが、国際部の持ち物ではなく、様々な部署が協力して、学内でより広く使っていくことが理想だと考えます。